

新年明けましておめでとうございます



長坂校区防災福祉コミュニティ
会長 川尻 幹雄氏

地域の防災力強化をめざして、去年は長坂地域で住民と学生との交流と共同作業が進んだ一年でした。両者の話し合いをもとに、学生のみなさんは数回の街歩きを行い、危険個所の特定や、避難ルートの提案など「いっせーのせ防災マップ」作成にこぎつけました。

一方で長びく新型コロナウイルスの感染対策から、自治会など地域コミュニティの中でも人々の交流や話合いの場が制限され、防災訓練など困難なところも多数あると推察されます。

2月には長坂ふれあいのまちづくり協議会主催の総合防災訓練が長坂小学校で開催されます。私たちは地域防災活動と合わせて、防災情報の発信を続けたいと考えています。

今年も防災訓練へのご参加をはじめ、防災のまちづくりへの地域の皆様のご協力をお願いいたします。

取材の成果は
次ページで
紹介しています



神戸市西消防署に神戸学院大学生が取材をさせていただきました

昨年12月2日に取材をさせていただいて、災害の際はまず自らが行動を起こして解決していく知識や力をつけることが必要であると学びました。災害は起きないことが一番ではありますが、地球に住んでいる以上は避けて通れるものではないので、備えを日々怠らないようにしていこうと改めて決意しました。そしてこの経験から学んだものを周りに発信し、たくさんの人に伝えていくことが大切であると感じたので、今後実施していきたいと思います。

学生への熱いメッセージもいただきました。日頃からもっと積極的に山、川、海などで遊んで自然と触れ合ってほしい。自然と触れ合うことによって自然の怖さを体感できるし、危機管理の能力も高まる。その力は、災害が起きた時に役立つ力だということです。

学生は、学校という知識の宝庫を活用して学び、そして教科書だけにとどまらず様々なところに出向きたくさんの見聞を深めてほしい。今しかできないことにチャレンジしてほしいとアドバイスをいただきました。

神戸学院大学 ボランティア支援室学生スタッフ災害班
吉田 颯真(経済学部2年次生)



熱心に話を聞く学生たち

◇お話を伺った方

神戸市消防局西消防署 総務査察課総務係 安藤 健彦さん
同 消防防災課 消防第1係 地域防災担当 佐藤 一平さん

◇学生記者

神戸学院大学ボランティア活動支援室学生スタッフ災害班
吉田 颯真、大澤 太希、松本 華歩、磯部 翔

地域防災のことを知ろう

現在、西区には30の防災福祉コミュニティがあり、地域住民が自立して年間の訓練計画を作ったり、リーダー研修を行ったりなど積極的に活動する地区もあります。長坂地区も積極的な地区のひとつのことでした。消防署としては、そのように自立をしている地区は自主的に活動してもらい、まだ自立できていない地区を支援していくことで地域全体の防災力の底上げをしていきたいとのことでした。

防災における地域住民の自立性が求められる理由は、地震などの大災害が起きた場合に消防がすべての場所に救助に行くことは絶対に不可能であるからです。災害が起きた際には、まずは地域の助け合いが大きな力になるのです。



大学のOGと対面でき、刺激を受けた学生たち

実際災害が起きたらどうするべき？

実際に災害が起きたらどうするべきなのかお伺いしました。

さまざまな災害がありますが、確実に言えることは自然災害に人間は打ち勝てるものではないということです。決して立ち向かわず、まずは「逃げる」ことです。しかし、災害時に避難指示が出たとしても避難行動に出ない人がおられます。

原因のひとつは「正常性バイアス」というものです。これは人間の本能としてあるもので、想定外の事態になっても心の平穏を守ろうとする心の働きです。これによって災害時に避難指示が出ていても、「これくらいなら大丈夫」「みんなが避難していないから大丈夫」と考えてしまいます。

自ら行動することを「恥ずかしい」と思わずに行動することが大切です。そして、いざというときのために早め早めの行動が必要です。自ら行動することにより、家族や近隣住民などの周りを巻き込み、避難の連鎖を広げることで被害を最小限に抑えることができるということでした。



消防車には救助のための多様な器具が装備されている

救急隊の現状について

救急要請は新型コロナウイルスの影響によって増加しており、逼迫している状況にあります。そんな中でも、救急隊は通報から現場到着まで、できる限り早く駆けつけるように努力されています。

自分や家族が急に体調を崩したり、怪我をしたりした際に、救急の要請をするかどうか迷うことがあるかも知れません。迷った場合は119番に通報することに抵抗感を持たなくてもよいとおっしゃっていました。それでも119番に電話をすることに躊躇してしまう場合は、「#7119」という救急安心センターの番号があり、これは看護師など専門家が24時間相談に応じてくれるものです。症状を聞き取って、アドバイスを言い、必要な場合には119番へと繋いでくれるものになっています。

「地域防災の心構え」

救急要請が複数同時に起きて救急車が足りない場合は、消防車が救急現場に向かうこともあるとのこと。

「#7119」の活用によって救急車の出動件数を減らし、救急車が足りない実態を解消することにつながります。

📌 日頃からできること、防災の視野を広げる

みなさん、学校や職場で災害にあった際に帰宅ルートはいくつありますか？

ひとつだけだと道路がふさがれると帰れない可能性があります。ですから、いくつかの帰宅ルートを作っておくことが大事とのこと。これによって余裕ができ、いざという時に冷静に避難行動がとれます。

また、自分が住んでいる地域でリスクの高い災害を考慮しておくことが大切ですが、いつどこで災害に会うか分からないため、全く異なる地域の災害の知識も身につけておくことも必要とのことでした。例えば、高台に住んでいるから津波や高潮は大丈夫とは思わずに、たまたま沿岸部に出掛けていた時には津波などのことも学んでおくべきです。逆の場合として、沿岸部の在住者も土砂災害のことも学んでおくといでしょう。

そして、現代はキャッシュレス化が進んでおりスマートフォンで支払いができるようになっていますが、災害時には使えなくなることを想定しておくべきです。日頃から、少しは現金を持っておくべきとのアドバイスもいただきました。

地域を知ることが防災の第一歩

農業から見た長坂・漆山地域の変遷 ～その1～

長坂ふれあいのまちづくり協議会委員長 久保 晶一

神戸学院大学や長坂地域福祉センターのある長坂新田・漆山地区は東西約2キロ、海拔約50～90mの丘陵地帯です。瀬戸内海式気候で温暖、少雨で暮らしやすく、南に淡路島を望みます。今年1982年に垂水区から離れ西区になって40年になります。この地域がどのような歴史をたどってきたか詳しい文献があるかもしれませんが、私の72年の人生で見聞きした範囲でお話したいと思います。

文献では1659年、明石城主松平日向守(松平信之公)は領内の新田開発に力を注ぎ、この地域も明石や魚住などの入植者によって開墾され、約60戸、面積約60町歩*の農村となって始まりました。村の中ほどには、信之公の供養墓(日向さん)があり、功績をたたえ毎年8月22日には村人により法要を執り行っています。

畑では野菜の栽培、特に大根栽培が盛んで、明石大根として神戸や大阪、京都まで出荷して名物にしたとあります。当地は水資源のない所で、畑の隅に池を掘って雨水を貯め、肥料は舞子、垂水の民家に下肥をもらい、荷車で運んで肥溜めに溜めました。耕作は人力で行っていたので過酷な労働であったと思います。栽培は長く続き、明治、大正の時代には加工技術が導入され、明石沢庵として遠くは関東や九州まで広く出荷していたようです。

大正時代初め頃から都市近郊の利便性を生かし、花卉栽培が盛んになりました。戦後しばらくは矢車草、金せん花、菊などの新鮮な花を花ござに巻いて担いで運び、電車を使って神戸や大阪の市場まで運んでいました。近年はトラック輸送が主流になりましたが、高速道路が整備されるにつれ地方から大量の農産物が来るようになり、徐々に都市近郊で新鮮な花という強みはなくなりました。最盛期には生産者は40戸ほどありましたが、現在は9戸がビニルハウスを利用して、ストック、トルコ桔梗、ひまわりなどの花を出荷しています。【次号に続く】

*1町歩(いっちょうぶ)は3000坪、9917.4㎡



漆山集落の様子 (昭和25年撮影)

長坂ふれまち ホームページの紹介

<https://nagasaka-furemachi.com>

活動報告



長坂ジュニアチーム

いきいき仕事塾



グラウンドゴルフ大会



子育て広場



盆踊り講習会



ふれあいサロン 開催のお知らせ

日時：令和4年12月3日(土曜日)
午前10時～11時30分
場所：長坂地域福祉センター
料 金：100円(飲み・お菓子)

部屋の予約状況



2022年3月にホームページを開
設しました。

- 施設の部屋の予約状況が確認
できます。
- イベント予定のお知らせと、
活動状況をタイムリーに掲載
しています。

地域の皆様にご覧頂き、益々
ふれまちの活動に参加しやす
くなるよう、内容を充実させて
いきます。

スマホでもご覧ください

検索キー ながさかふれまち



長坂ジュニア防災学習



防災リーダー研修



ふれあいサロン



なごみの会



防災情報誌『いっせーのせ』VOL.7

発行 2023年1月1日

発行者 長坂ふれあいのまちづくり協議会

神戸学院大学ボランティア活動支援室

連絡先 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

神戸学院大学 ボランティア活動支援室

T E L 078-974-1551(大学代表)

E-mail kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp